

消費税

大鰐町立大鰐中学校2年

吹田 芽希

消費税とは正式には商品の販売やサービスの提供に対してかかる税金のことです。買い物をすると年齢に関係なく誰でもが必ず10%払うことになるものです。

では、消費税はいつから始まったのでしょうか。調べてみると、1989（平成元）年3%の税率からスタートしました。その後、1997（平成9）年に5%。2014（平成26）年に8%。2019（令和元）年10月から10%に税率が引き上げられ、今に至っています。

僕は、だんだん税率が上がっているのは、人口が減ってきているのも理由の一つになっているのではないかと思います。人口が多ければ一人ずつの負担が少なくなると思うので税と人口の関係も大事なことだと思います。

さらに、消費税の活かされ方に興味をもちました。

1つめは、年金です。年をとってくると働きたいと思っても働けなくなるときがくるので、そういう人たちのために生活を助けるものに変わる資金になっていると思います。

2つめは、医療費です。僕たちが病気になったりケガをしたりしたときに助けてくれているのも税金です。治療したお金を全部支払うことになると想像できない金額になるかもしれません。しかし、ここでも税金が役立てられています。だから僕たちは程度に合った医療サービスを受けることができると思います。

3つめは、介護サービスです。介護とは、その人の利益となることを主張して助けることです。また、その本人のために話したり聞いたりをしてあげるなどをして守ってやることです。トラブルを解決するためのサポートなども含まれています。

少なくとも、これら3つには僕たちの消費税が役立てられているのです。実感はないけれど、誰かの、何かのためになっているのはうれしいです。

世界では消費税の高い国の代表としてハンガリーの27%、フィンランドの25.5%、デンマークの25%が上位とされています。

反対に低い国は台湾やカナダの5%、他にはマレーシアもありました。

僕がわかったことは、税率が高いや低いの違いはあるけれど、それぞれの国にとって必要な数字であるということです。消費税にはメリットもデメリットもあると思うけれど、そのおかげで僕は今、楽しく、そして安心して暮らしているので消費税は悪いものではないと思いました。